

**対ジャマイカ草の根・人間の安全保障無償資金協力
「ライッソンス公立小学校通学バス整備計画」
引渡式**

２０１９年１１月２２日、セント・トーマス県において、対ジャマイカ草の根・人間の安全保障無償資金協力「ライッソンス公立小学校通学バス整備計画」の引渡式が開催されました。

土生川参事官は挨拶の中で、「誰一人取り残されない世界の実現」を目指す日本の人間の安全保障の理念を紹介しつつ、これまでジャマイカで展開してきた草の根レベルの日本の支援について説明しました。その上で、本通学バスの整備によって、登下校が困難な児童や、課外学習活動の参加が制限されていた児童の教育環境が改善されることを期待しました。

ライッソンス公立小学校は、１９７２年に南東部セント・トーマス県のライッソンス地区に小中一貫校として設立され、１９９５年に小学校に再編されました。全児童数の８０％以上が周辺の山間部に居住しており、最も遠い地区は車で１時間３０分かかります。しかし、ライッソンス地区は公共バスは未整備で、同校は通学バスを所有していないため、児童の多くは乗り合いタクシーで通学しており、通学中の児童が事故に巻き込まれるなど安全面の問題だけでなく、経済的な困難も抱えていました。

本計画によって、同学校の通学環境が大幅に向上し、児童の教育環境の改善及び地域の活性化に繋がることが期待されています。

今般の引渡式には、被供与団体である小学校の関係者、フェントン・ファーガソン議員（セント・トーマス県東地区選出、元保健省大臣）、国家教育基金等の教育・学校関係者、報道関係者、地域住民代表などの来賓が出席しました。

被供与団体の代表であるビーチャー校長は、質の高い通学環境を児童に提供するための支援を日本政府から受けられたことは光栄であると述べました。ファーガソン議員は、郊外の山間部が抱える公共の交通環境の問題は深刻であると述べつつ、これまでにセント・トーマス県で実施された全ての日本の草の根事業について深い感謝を表し、今後のジャマイカと日本のパートナーシップ拡大の必要性を強調しました。



挨拶する土生川参事官



ファーガソン議員（セント・トーマス県東地区選出）



ビーチャー・ライッソンス公立小学校校長



感謝の歌を披露する児童代表



供与されたバスのテープカット



式典に参加する児童、地域住民代表